

た。また、排水路 (St. 1~St. 2) にも流出がみられ、排水路 3 地点のうち最も S S 濃度が高いのは St. 1 の 183.0mg/L (9 時 40 分) であった。なお、排水路 St. 3 では流出はみられなかった。

(エ) 第 4 回降雨時調査結果 (平成 14 年 7 月 3 ~ 4 日)

地点毎の S S 濃度及び S S 負荷量と降雨状況を図-6.5.1.1(6)に示す。

平成 14 年 7 月 3 日の日降水量は 82mm、7 月 4 日の日降水量は 9mm であった。最大 S S 濃度は St. B の 142.0mg/L (7 月 3 日 9 時 15 分) で、最大 S S 負荷量は轟川下流に位置する St. H の 7.724kg/分 (128g/秒) (7 月 3 日 14 時 50 分) であった。なお、排水路では水の流出はみられなかった。St. H については S S 濃度のピークは降雨ピークの約 4 時間後であった。

(オ) 第 5 回降雨時調査結果 (平成 14 年 9 月 6 ~ 7 日)

地点毎の S S 濃度及び S S 負荷量と降雨状況を図-6.5.1.1(7)に示す。

平成 14 年 9 月 6 日の日降水量は 39mm、9 月 7 日は 3mm であった。最大 S S 濃度は St. B の 2,520.0mg/L (9 月 6 日 10 時 30 分) であり、最大 S S 負荷量も同じく St. B の 222.353kg/分 (3,705g/秒) (9 月 6 日 10 時 30 分) であった。排水路にも流出がみられ、事業実施区域前面の排水路 3 地点のうち最も S S 濃度が高いのは、St. 2 の 880.0mg/L (9 月 6 日 15 時 20 分) であった。S S 濃度のピークは、轟川上流部の St. B、C では降雨開始後から 2、3 時間後に測定されたが、これは降雨ピークより前であった。St. D、E については降雨ピークから約 1 時間後、St. F、G、H については降雨ピークから約 2 時間後であった。

(カ) 第 6 回降雨時調査結果 (平成 15 年 6 月 7 ~ 8 日)

地点毎の S S 濃度及び S S 負荷量と降雨状況を図-6.5.1.1(8)に示す。

平成 15 年 6 月 7 日の日降水量は 108mm、6 月 8 日が 2mm であり、最大 S S 濃度は St. H の 167.0mg/L (6 月 7 日 9 時 45 分) で、最大 S S 負荷量は St. C の 11.856kg/分 (198g/秒) (6 月 7 日 9 時 57 分) であった。また、排水路にも流出がみられ、事業実施区域前面の排水路 3 地点のうち最も S S 濃度が高いのは、St. 2 の 62.4mg/L (6 月 7 日 10 時 00 分) であった。なお、排水路 St. 3 では流出はみられなかった。